

# 活力あふれるふるさとを目指して

一般会計は約21億2700万円

6月開園を目指し、急ピッチで工事が行われている開田保育園



予算の説明をする千村村長

## 木曾馬とそばの里づくり事業にむか

平成17年3月の定例村議会にて一般会計と4つの特別会計の予算審議が行われ、総額で27億円余り(前年度比▲7・9%)の予算が決まりました。本年11月の町村合併を控え開田村としては最後の予算ということになります。この中で、従来は特別会計で予算を組んでいた福祉企業センター会計が、新年度からは一般会計(労働費)へ含まれることになりました。

今回も全体的に厳しい財政状況を反映した予算編成になっています。歳入面では国の三位一体改革による地方交付税などの見直しの影響を受ける一方、村税や財産収入などの自主財源も思うような伸びが期待できず、最終的には7つの基金から1億7千万円余りの繰り入れ(貯金の取り崩し)を予定しています。この中には保育園施設整備基金1300万円やマイアスキー場整備基金1000万円など、特定目的のために積み立てていて今回取り崩しを予定しているものなども含まれています。

また、歳出面では特別職や職員の人件費を3%~5%削減したほか、物件費や補助費など経常経費を極力抑制するとともに、限られた予算の中で特色ある事業展開に努めています。

今年度の目玉事業はやはり、前年度からの継続事業になっている開田保育園整備事業です。事業費およそ3億9200万円(このうち平成17年度は約1億2800万円)。5月末の完成、6月からの開園を目指し急ピッチで工事が進められています。

また、村道整備などの基盤整備事業をはじめ木曾馬とそばの里づくり事業などには積極的に予算を計上しました。平成15年度に整備した馬車を有効活用し、木曾馬の里の魅力をアップするため馬車道を整備するほか、そば製造の効率化を図るためそば工場に乾燥機や自動製麺機を設置、さらにコンバインの購入なども予定しています。

4つの特別会計の中では、簡易水道事業が50%ほどの大きな伸び率を示していますが、これは下ノ原配水管工事費などの建設改良事業が今年から新たに始まるためです。

本年度も活力あふれるふるさとづくりに向けて適正な財政運営、予算執行を目指します。